

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

## #4 幼保小を架け橋するとまどいマトリクス、異なる学校種でペアワークー善野八千子先生(奈良学園大学)にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

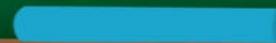
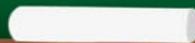
<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年幸生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



## (ご紹介)



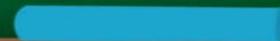
善野八千子

ぜんの やちこ

奈良学園大学 学長補佐  
社会・国際連携センター長  
人間教育学部 特任教授

大阪教育大学大学院 修士課程修了、修士（学術）。  
大阪府堺市立小学校教頭、大阪府教育センター主任指導主事、  
国立教育政策研究所客員研究員、奈良文化女子短期大学学科  
長教授を経て、現職。

大阪府人権施策審議会会長、和歌山県家庭支援事業協議会座  
長、大和高田市子ども子育て会議委員長等歴任





一前治子・秋田喜代美・天野美和子（作成）（2022.3）  
 リーフレット『幼保小の架け橋のために—エビデンスからみる知恵と工夫—』  
 > 善野先生インタビュー紹介  
 「幼保小を架け橋するとまどいマトリクス」 「異なる学校種でペアワーク」

それではご覧ください

大学教員で  
小学校教師経験あり



H先生

- ◆ ワークショップでは、小学校入学期の子どもの戸惑いに着目して学び合うために考案されたワークショップツールである「とまどいマトリクス」を活用した研修を行っている。
- ◆ 研修の際に、小学校の国語や算数、音楽などの教科書の内容を実際に園の先生方にお見せしながら、園での活動とつながりがあることをお伝えしている。
- ◆ 大きなホールでの講演による研修でも、参加者にはペアでワークをしてもらっている。その際、同じ園の仲間同士や、保育者同士などではなく、できるだけ異なる園や学校の先生とペアになってもらうように事前に伝えてるようになっている。

2021 インタビューによる調査に協力  
大学教員で小学校教師経験あり

善野八千子

# 教育行政における幼小接続期の政策形成についての考察 (善野八千子2019)

## 1989年の生活科の創設以降から今日に至る 幼小接続カリキュラムをめぐる教育政策の概要

1. 「生きる力」における「学習の基盤」をめざす第1段階
2. 「小1プロブレム」の予防・解消をめざす第2段階
3. 安全で安心な学校生活をスタートさせる第3段階
4. 学びに向かう子どもを育てる第4段階

# 入学後の子どもの「とまどい」

◆着目したこと：指導者が困っている状況からではなく、学習者である子どもが「入学後に戸惑っている状況」に着目。

## ◆仮説

「とまどい」要因を幼児教育と小学校教育の双方で解決することで、子どもの育ちと学びを連続させることができる

## ◆「とまどい」の定義（善野2012）

「解決するための手段や方法が思いつかず、どのように対応したらよいか困ってまごつく状況」

そういう場合の子どもの言動：入学後の子どものとまどい

- ここでいう「とまどい」は、個別の発達状況の課題から起因していることが明確な場合ではない。

# 環境移行期における段差の6要素

善野八千子「幼小接続期におけるカリキュラムの開発Ⅲ～入学後の子どもの戸惑いに着目して～」  
奈良文化女子短期大学研究紀要第43号p.49～p.67(2013)

時間



空間



人間



もの



技能



心情



# 保育者及び小学校教諭の学級経営観

(中川ら、2009)

保育者

- ・ 心情を重視した
- ・ 受容的関わり

小学校  
教諭

- ・ 規範を重視した
- ・ 指導的関わり

# 【研修会の実際】

保幼小教職員が混合グループ

共に「入学後のとまどい事例」を出し合い  
要因を分析する

→カリキュラム作成・改善につなげる

(幼児教育関係者)

入学後の4月の参観授業  
で卒園児時の「とまどい」  
を観たのですが、できてい  
た事がなぜ…。



色別ポストイットに子供の「とまどい」事例を記述  
◆幼児教育関係者 →ピンク  
◆小学校教育関係者 →黄色



「とまどいマトリクス」を活用したワークショップ  
参加型合同研修  
(1グループに、公私立保幼小の教職員が混在)

<表1 とまどいマトリクス(善野2012)>

学びの基礎力「知・徳・体」	「とまどい」事例と6つの要因	①時間	②空間	③人間	④もの	⑤技能	⑥心情
知	② 自分の名前を書けるか むずかしい友達を書けるか いるか多いか		○		○	○	
	④ 道具の 分け方 わかるか (物が増える)						
徳	① 男の先生が いる	○			○		
	② 先生の話を きくこと に慣れていない いけない						
体	④ いろいろな 整列のバリエーション 覚えられない お片づけ(列・二列) 前向き・後向き						
	① いろいろな施設 大まかに お片づけ お片づけ → お片づけ お片づけ → お片づけ				○		

(小学校教育関係者)  
幼稚園の先生から「小学校の男の先生」が子供の「とまどい」になっているとは、考えもしなかったです。

(小学校教育関係者)  
科学あそびの時間に、幼稚園に「小学校の男の先生」が「おもしろ実験」に白衣を着て行くことにします。

▲保幼小混合の教員で実施した合同研修 「とまどいマトリクス」活用の一例



## ～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～

### 【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

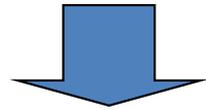
- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- **施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう**
- 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう
- **ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的な使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう**
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

# 1分間「○○じまん」

## 信頼構築の基本

## 聞く・話す

• 聞く



• 聴く



• 効く

受容・共感

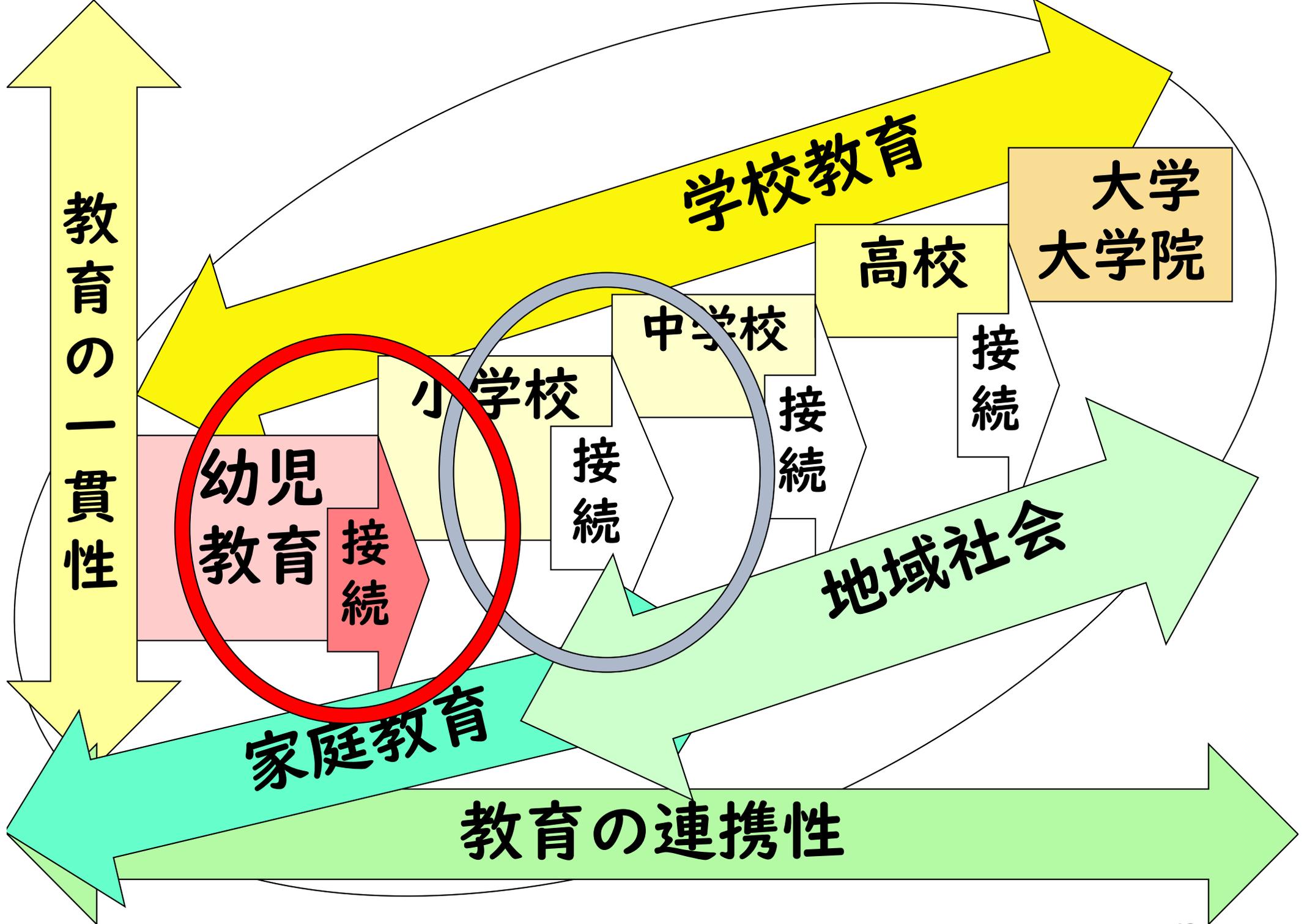


図 「教育の連携性」と「教育の一貫性」(善野八千子2013)